

# 緑化だより No.226

令和 8年5月号



ドイツズラン

- 季節の花(かしは(カシワ))
- 水生昆虫の話  
(モノアラガイ)
- 小さな世界こけ  
(タニゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

5月 休園日はありません

ryokka 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県  
緑化センター  
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

# 季節の花

## かしは(カシワ)

「吉野川 巖(いは)と柏(かしは)と常盤(ときは)なす

我(われ)は 通(かよ)はむ 万代(よろづよ)までに」

作者不明 萬葉集 卷 7-1134

これを訳しますと

(奈良時代、吉野は<sup>やまとのくに</sup>大和国南部を代表する地で神秘的な場所とされていました。そこを流れる吉野川には<sup>ちんざ</sup>鎮座している大きな巖<sup>いわ</sup>があり、それに深く根が張り付いている、精霊が宿ると言われている柏<sup>かしわ</sup>の木があります。この場所がいつまでも変わることが無いように、私も末永くここに通いましょう。)

この歌は吉野を訪れた<sup>かんにん</sup>官人が、天皇への忠誠心の気持ちを表して宴席で詠われた歌です。中世以降吉野は桜の名所として賑わっていますが、奈良時代は神が宿る神聖な地と言われていました。

カシワはブナ科コナラ属、落葉高木で、北海道から九州まで自生しています。

名前の由来は「炊葉(かしきは)」で、食器としてカシワの葉が利用されていたことからです。

葉は大きく、縁に沿って丸く大きな鋸歯があります。

葉は儀式にも使用され、皇位継承の時カシワの葉で作られた平皿が使用されます。

花期は5月で、雄花は垂れさがり、雌花は小さくて目立ちません。

翌年の春、新芽が出るまで古い葉が落ちないことから、世代交代と子孫繁栄の象徴とされています。

端午の節句にはカシワの葉に包んだ柏餅が作られ、子供の成長を祝う日本の伝統行事が行われています。(上村)



カシワの葉と花

# 水生昆虫の話

## モノアラガイ

木々の緑が鮮やかに色づく5月、水辺の生態系は一気に活気を帯びてきます。水中で育った昆虫たちが一斉に羽化し、空へと飛び立つこの時期は、まさに生命の躍動を感じる瞬間です。こうした変化は水面下でも着実に進んでおり、巻き貝たちの活動も目に見えて活発になってきました。

さて、今回は、昨年7月号でご紹介した外来種の「サカマキガイ」によく似た淡水の巻貝として、チラッとご紹介した「モノアラガイ」についてご紹介します。

「モノアラガイ(物洗貝)」は、日本に昔から生息している淡水巻貝で、北海道から九州の日本各地と朝鮮半島に生息しています。

主に、淀んだ小川や水田、ため池や沼などで見つけることができます。

食性は幅広く、付着藻類や落ち葉、ときには生物の死骸など、いわゆるデトリタス(有機物)を食べて生活しています。

パッと見は「サカマキガイ」とよく似ていますが、殻の巻く方向が右側であり、よく見ると頭部のいわゆる角の部分が平たく太い感じなので、ヒゲのように細く長いサカマキガイの角の部分とは異なっています。

私は貝の口の部分で「左サカマキ、右モノアラ」と覚えています。

サイズは大きい個体で2cm程度。コロンと丸っこくて殻は薄くて淡茶色から飴色の半透明で、体にある水玉のような模様が透けて見えます。

水槽で飼育して観察していると、透明なゼリー状の塊魂の中に、半透明の小さな粒つぶが見えるような卵を産みます。

ちなみにカタツムリと同様に雌雄同体です。

この「モノアラガイ」、数十年前までは、いわゆるどこにでもいる普通種でしたが、じつは近年、農薬やコンクリート護岸等の河川改修、水質汚染や近縁の外来種などの影響で、生息数が激減しているんです。

2020年の環境省レッドリストでは準絶滅危惧(NC)に指定されており、特に奈良県では絶滅危惧I類の絶滅寸前種、広島県でも情報不足ですが絶滅の恐れがある種となっています。

ちなみに、水際のじめじめした地面に生えている草の茎や葉っぱに生息している、よく似ているけどちょっと違う、陸生の巻貝で「オカモノアラガイ」という種もいます。

広島県では「ナガオカモノアラガイ」が準絶滅危惧種に指定されています。

当たり前のようにそこにいた生き物が、ふと気がつくとき姿が見えなくなっている。今、そのような状況が森里川海の各所で起こっています。

子どもの頃よく見慣れていた小さな命を、まだ確認することができますか？

普段の生活の中で少し気にかけていただけたら嬉しいな、と思います。(西村)



モノアラガイ



サカマキガイ

## 小さな世界 こけ

### タニゴケ

セン類アオギヌゴケ科のタニゴケは、その名の通り湿ったところに生え、北半球に広く分布しています。大型のコケで岩の上や溪流沿いに生育し、センター内でも第4駐車場や溪流などで黄緑色～黄褐色の群落を見ることができます。

雌雄異株ですが、まれに雌雄独立同株のものがあります。

茎は長さ5～10 cm、不規則に羽状に分枝し、枝先は細く、樹枝状になります。葉は乾くと圧着し、湿ると広がります。

葉の大きさは1.5～2.0 mmの卵形で凹み、ゆるい縦じわがあります。葉の先は短く尖り、葉の縁は全縁で中肋は1/2～2/3で終わります。蒴柄は長さ2.0 cmで赤褐色、蒴帽には長い毛があります。

よく似たコケにヒツジゴケなどがありますが、アオギヌゴケ科のコケは似ているものが多く同定が困難です。(山根)



タニゴケ



タニゴケの拡大

# 研修会のご案内

- 5月 6日(水・振休) 『第19回ひろしま遊学の森こども写生大会』  
～春の緑化センターを描こう～ 9:30～15:30 【受付】管理事務所  
審査委員:元中国新聞社図画教室  
指導審査員 横山 直江  
※小学生以下対象、自由参加、無料、画材(画用紙以外)持参  
雨天順延⇒5月10日(日)
- 5月 9日(土) 『春のバードウォッチング』 10:00～12:00 管理事務所前 集合  
散策路を歩きながら野鳥を観察します  
講師:日本鳥類保護連盟  
三次地方分会事務局長  
衛藤 慎也  
※自由参加、無料、双眼鏡持参
- 5月13日(水) 『5月の植物観察会』 10:00～12:00 学習展示館前 集合  
散策路を歩きながら植物を観察します  
講師:緑花文化士  
横山 直江  
※自由参加、無料
- 5月15日(金) 『コケの観察会』 10:00～12:00 学習室 集合  
室内で基本を学び、屋外で観察します  
講師:広島大学名誉教授  
山口 富美夫  
※自由参加、無料、ルーペ持参
- 5月20日(水) 『春の写真教室』～春を写そう～ 10:00～12:00 管理事務所前 集合  
散策路を歩きながら、植物の撮影について学びます  
講師:二科会会員  
宗岡 泰昭  
※要予約(先着15名)、無料、カメラ持参
- 5月24日(日) 『庭木の病虫害教室』 10:00～12:00 学習室 集合  
防除と土壌改良について学ぼう  
講師:樹木医  
菅 信貴  
※自由参加、無料
- 5月27日(水) 『松の手入れ(春)』 10:00～12:00 学習室 集合  
基本を学び、屋外で実技指導を行います  
講師:NPO法人樹木医ひろしま  
藤井 京子  
※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参
- 6月 7日(日) 『自由工作塾』 10:00～15:00 レストハウス前  
自然の素材で自由に工作  
講師:緑化センターボランティア  
ふれあい湧  
※自由参加(随時受付)、材料費1作品100円
- 6月 7日(日) 『ネイチャーゲーム』～自然と遊ぼう～ 10:00～15:00 レストハウス前  
自然の中で遊びを体験します  
講師:広島市  
シェアリングネイチャーの会  
※自由参加(随時受付)、無料

## ♪☆お知らせ・ご案内 ☆♪

- ・森のふれあい動物園 5月17日(日) 10:00～15:00  
アルパカなどに餌をあげたり、ウサギやヒヨコたちを  
抱っこできます。
- ・ひろしま「山の日」県民の集い 6月 7日(日) 10:00～15:00  
場所:レストハウス前広場  
山の手入れ、自由工作塾、自然と遊ぼう



## ◎展示会

- 場所:レストハウス (ボード展示)  
・日本画作品展 ～5月22日(金)